

もくじ

■ Read&Think 歴史総合（歴総 002-902）

| | |
|-----------------|----|
| 1 学習の到達目標 | 2 |
| 2 科目の特色 | 2 |
| 3 学習の計画 | 3 |
| 4 評価の方法 | 19 |

| | | |
|------------|--|--------------|
| 歴史総合 | 単位数 | 2 単位 (70 時間) |
| | 学科・学年・学級 | ○○科 第○学年 ○組 |
| 使用教科書、副教材等 | 東京書籍「Read&Think 歴史総合」(歴総 002-902)、 「Read&Think 歴史総合 ワークノート」(以上東京書籍) | |

1 学習の到達目標

- ①近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②近現代の歴史の変化に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③近現代の歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 科目の特色

「歴史総合」は、従来の科目である「世界史A・B」「日本史A・B」「地理A・B」の反省点を踏まえ、時間認識と空間認識をバランスよく総合する人材育成を目指し、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育むという観点から、「地理総合」とともに必履修科目として誕生した。「歴史総合」は、「地理総合」と相互補完的な役割を果たすとともに、「世界史探究」「日本史探究」へと接続する土台としての役割を果たす科目である。

「歴史総合」では、「現代的な諸課題の形成に関する歴史の大きな変化」として、以下の三つの変化に着目している。

- ◎産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会のあり方が変化したこと。
- ◎政治、外交、経済、思想や文化などのさまざまな面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会のあり方が変化したこと。
- ◎科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えていっそう流動するようになり、人々の生活や社会のあり方が変化したこと。

このような近現代の歴史の大きな変化を、「近代化」、「国際秩序の変化や大衆化」、「グローバル化」と表し、生徒自身が系統立てて学習できるように、「A 歴史の扉」、「B 近代化と私たち」、「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」、「D グローバル化と私たち」の四つの大項目が設定されている。

そのため、本書も「序章 歴史の扉」、「第1章 近代化と私たち」、「第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち」、「第3章 グローバル化と私たち」という構成になっている。「序章 歴史の扉」は「歴史と私たち」「歴史の特質と資料」の2項目からなっており、資料を基にさまざまな歴史が叙述されていることを学ぶ。第1章～第3章はそれぞれ、1節で資料から情報を読み取ったりまとめたりして「問い合わせ」を表現し、2・3節で主題を設定して資料を活用して課題を考察する。そして、第1章と第2章の4節は、「自由・制限」、「平等・格差」、「開発・保全」、「統合・分化」、「対立・協調」などの観点を活用して、現代的な諸課題の形成に関する歴史について多面的・多角的に考察し、表現する。第3章の4節は、科目全体のまとめとして、持続可能な社会の実現を目指して、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について多面的・多角的に考察し、表現する。

これらの近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を考察、構想する学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指すのが、「歴史総合」という科目である。

3 学習の計画

| 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習のねらい | 主な学習活動 |
|----|--|------|---|--------|
| 4月 | 序章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 世界とつながる旅行 の歴史 ～身近なものから歴 史を考えてみよう～ | | ○諸資料を活用し、私たち の生活や身近な地域などに見 られる諸事象が、日本や日本周辺の 地域および世界の歴史とつなが っていることを理解する。 | |
| | 2節 歴史の特質と 資料 | | ○日本や世界のさまざまな 地域の人々の歴史的な 営みの痕跡や記録である 遺物、文書、図像などの 資料を活用し、資料に基づいて歴史が 叙述されていることを理 解する。 | |
| | ◆18世紀までのさま ざまな世界 1 日本の幕藩制社会 と身分制 2 東アジアの伝統的 な華夷秩序 3 イスラーム世界に おけるカリフと秩序 4 ヨーロッパにおけ る主権国家体制の形 成 5 世界の一体化の進 展と銀の流通 6 18世紀の世界 | | ○日本の江戸時代の支配体 制について理解する。 ○東アジアの華夷秩序につ いて理解する。 ○イスラーム世界のカリフ と秩序について理解す る。 ○ヨーロッパの主権国家体 制について理解する。 ○前近代における銀の役割 について理解する。 ○18世紀の世界の様子を ながめ、諸地域のつな がりについて確認す る。 | |
| | 第1章 近代化と私 たち 1節 近代化への問 い | | ○交通と貿易、産業と人 口、権利意識と政治参 加や国民の義務、学校 教育、労働と家族、移 民などに関する資料を 活用し、近代化に伴う 生活や社会の変容につ いて多面的・多角的に 考察し、問い合わせを表 現する。 | |

| 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習のねらい | 主な学習活動 |
|----|-----------------------|------|---|---|
| 5月 | 2節 アジアの繁栄と西洋近代の形成 | | <p>①18世紀のアジア諸国との経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。</p> <p>②産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治や経済の変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、世界市場の形成や近代社会の形成を理解する。</p> | |
| | 1 18世紀の東アジア | | <p>○18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築いていったのかについて理解する。</p> | <p>○18世紀のアジアの経済と社会についての問い合わせ表現し、小単元の学習の見通しを立てる。</p> <p>○18世紀の東アジア諸国が、それぞれどのように発展していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | ●歴史のまなざし アイヌと琉球・沖縄 | | ○アイヌと琉球の歴史について学び、18世紀の東アジアの理解を深める。 | |
| | 2 結び付くアジア諸地域 | | ○18世紀のアジア諸地域はどのように結び付いていたのかについて理解する。 | ○18世紀のアジア諸地域にどのような文明があり、それぞれがどのような経済関係を形成していたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習のねらい | 主な学習活動 |
|---|-----|------------------|--|---|
| | | 3 18世紀のヨーロッパとアジア | ○18世紀のヨーロッパとアジアとの交易にはどのような変化が見られたのかについて理解する。 | ○18世紀のヨーロッパとアジアとの間の交易がどのようなものであつたのかを諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○18世紀のアジアの経済と社会についての問い合わせ踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |
| | | 4 市民革命と近代会 | ○市民革命はどのような社会の仕組みを生み出したのかについて理解する。 | ○立憲体制と国民国家の形成についての問い合わせ表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○アメリカ独立革命やフランス革命が生み出した社会の仕組みについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 5 産業革命のはじまり | ○産業革命が社会にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。 | ○工業化と世界市場の形成についての問い合わせ表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○イギリスで産業革命が起った背景や、産業革命がもたらしたその後の変化について、諸資料から読み取り、その因果関係について多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 6 世界市場の形成 | ○産業革命を経て、世界各地の経済がどのように変化したのかについて理解する。 | ○産業革命を経て圧倒的な工業力を持ったイギリスが、「世界の工場」・「世界の銀行」と呼ばれるようになる過程や、その影響を受けた諸地域がどのように変容していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 7 自由主義とナショナリズム | ○19世紀の欧米諸国では、どのような国家形態が模索されたのかについて理解する。 | ○19世紀の欧米で広まった、自由主義とナショナリズムの運動が生み出した国家形態について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| | | | | |
|----|----------------------|--|---|--|
| 6月 | 3 節 世界の一体化と多様な近代化 | | <p>①国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。</p> <p>②帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。</p> | |
| | 8 東アジアの国際秩序の変化と日本の開国 | | <p>○19世紀の東アジアが、西欧諸国とどのような関わりを持ったのかについて理解する。</p> | <p>○19世紀の東アジアが、この地域に進出してきた西洋諸国とどのように関わり、どのように変化していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | 9 アジアの諸国家とその変容 | | <p>○19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的变化が生じたのかについて理解する。</p> | <p>○19世紀に起きたアジア諸地域の政治的变化について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | 10 明治維新と東アジアの国際関係 | | <p>○明治維新は、どのような国際環境の中で起き、日本社会をどのように変えたのかについて理解する。</p> | <p>○日本で明治政府が行ったさまざまな改革や、その当時の東アジアの国際関係について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | 11 立憲制の広まり | | <p>○19世紀後半の立憲制国家は、それぞれどのような特徴を持っていたのかについて理解する。</p> | <p>○19世紀後半のさまざまな国の立憲制について、それぞれの特徴を諸資料から読み取り、その類似点や相違点を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○立憲体制と国民国家の形成についての問い合わせを踏まえて、小单元の学習を振り返る。</p> |

| | | | | |
|----|--|--------------------|---|---|
| | | 12 世界経済の変化と日本の産業革命 | <ul style="list-style-type: none"> ○イギリスで始まった産業革命が、どのように世界に広まつたのかについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○産業革命の拡大が、日本をはじめとした国々にどのような変化をもたらし、世界経済の結びつきをどのように変えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○工業化と世界市場の形成に対する問い合わせ踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |
| | | 13 帝国主義と植民地 | <ul style="list-style-type: none"> ○帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのように繰り広げられたのかについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容についての問い合わせを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○帝国主義が起こった背景や、帝国主義国による世界分割の進行と世界秩序の変容について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 14 日清戦争と華夷秩序の終結 | <ul style="list-style-type: none"> ○日清戦争が東アジアの国際秩序にどのような影響を与えたのかについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日清戦争が起こった背景や、戦後の東アジアのナショナリズムの高まりについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 15 帝国主義諸国の競合と国際関係 | <ul style="list-style-type: none"> ○帝国主義国家どうしがどのような関係を築いたのかについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○帝国主義諸国間の対立や協力、日本とロシアの対立などの国際関係について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| 7月 | | 16 植民地支配と植民地の近代 | <ul style="list-style-type: none"> ○植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○帝国主義国による植民地支配とそこで暮らす人々の生活などについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| | | | |
|--|--|---------------|--|
| | | 17 20世紀はじめの世界 | <p>○20世紀初め、帝国主義に対して世界各地の人々はどのような態度を示したのかについて理解する。</p> <p>○20世紀初めの帝国主義国内の人々の動きや、その当時の国際関係の再編について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容についての問い合わせを踏まえて、小単元の学習を振り返る。</p> |
| | 4節 近代化と現代的な諸課題 | | <p>○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。</p> |
| | 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い合わせ | | <p>○国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問い合わせを表現する。</p> |

| | | | | |
|----|-----------------|--|--|--|
| 9月 | 2節 第一次世界大戦と大衆社会 | | <p>①第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。</p> <p>②第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。</p> | |
| | 18 第一次世界大戦の展開 | | <ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦はどのように展開したのかについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦において出現した総力戦体制とはどのようなものだったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | 19 国際協調体制の形成 | | <ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦後、戦争の再発を防ぐためにどのような仕組みがつくられたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | 20 ソヴィエト連邦の成立 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ソヴィエト連邦の成立と、社会主义運動の拡大について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ソヴィエト連邦がどのような経緯のもとに成立し、社会主义国家の成立が世界にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| | | | | |
|-----|--|----------------------|---------------------------------|---|
| | | 21 アメリカ合衆国の台頭 | ○アメリカ合衆国の台頭と大衆文化の広がりについて理解する。 | ○アメリカ合衆国の台頭と大量生産・大量消費社会の到来が、世界の人々にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 22 アジアの経済成長と移動する人々 | ○アジアの経済成長とそれぞれの地域の結び付きについて理解する。 | ○第一次世界大戦後のアジアの経済がどのように発展し、どのような人の移動があったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制についての問い合わせを踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |
| 10月 | | 23 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 | ○反植民地主義の高揚と国際秩序の変容について理解する。 | ○大衆社会の形成と社会運動の広がりについての問い合わせを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○国際協調の時代に、アジアではどのような民族運動が起こり、日中関係がどのように展開していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 24 民主主義の進展と社会変革の動き | ○世界における民主主義の進展と、日本での展開について理解する。 | ○民主主義がどのように世界に広がり、日本で大正デモクラシーと呼ばれる風潮を引き起こすことになったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| | | | |
|--|------------------|------------------|--|
| | | 25 大衆化を支えるテクノロジー | <p>○マスメディアの発達と人々の日常生活の変化について理解する。</p> <p>○マスメディアの発達と、それに対する人々の日常生活の変化、大衆社会の成立について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○大衆社会の形成と社会運動の広がりについての問い合わせを踏まえて、小単元の学習を振り返る。</p> |
| | 3 節 経済危機と第二次世界大戦 | | <p>①経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動搖の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動搖を理解する。</p> <p>②第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。</p> |
| | | 26 世界恐慌 | <p>○世界恐慌が発生した原因とそれに対する各国の対応について理解する。</p> <p>○国際協調体制の動搖についての問い合わせを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。</p> <p>○世界恐慌が発生した過程と、それに対して各国がどのように対応したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |

| | | | | |
|-----|--|--------------------|---|---|
| | | 27 アジア・アフリカと大衆社会 | ○動搖しつつある国際協調体制下での、アジア・アフリカ諸国の人々の対応について理解する。 | ○国際協調体制の動搖の中で、アジア・アフリカ諸国の人々がどのように自立化を模索し、大衆運動を活発化させていったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 28 国際協調体制の崩壊 | ○第一次世界大戦後の国際協調体制の崩壊について理解する。 | ○ヨーロッパにおけるファシズムの伸長とそれへの他国の対応、アジアにおける日本の軍部の台頭について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 29 日中戦争と深刻化する世界の危機 | ○日中戦争やファシズムの膨張による世界の危機について理解する。 | ○日本がどのような経緯で日中戦争を始め、また、それがヨーロッパの動きとどのように関わり合っていたかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際協調体制の動搖についての問い合わせ踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |
| | | 30 第二次世界大戦の展開 | ○第二次世界大戦の勃発とその拡大、および日中戦争との結び付きについて理解する。 | ○第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰についての問い合わせ表現し、小単元の学習の見通しを立て る。 ○第二次世界大戦がどのように始まり、どのように拡大したか、また、日中戦争やアジア太平洋戦争とどのように結び付いたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| 11月 | | 31 連合国に戦後構想 | ○第二次世界大戦の終結と戦後の国際秩序の形成について理解する。 | ○イタリアとドイツがどのように無条件降伏をしたか、また、戦後にどのような国際秩序がを目指されたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| | | | | |
|--|--|-----------------------|----------------------------------|--|
| | | 32 アジア太平洋戦争と日本の敗戦 | ○アジア太平洋戦争の展開と、日本の敗戦について理解する。 | ○アジア太平洋戦争下の人々の生活はどのようなものだったのか、また、戦争がどのように展開していく中で日本が降伏したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 33 連合国による占領政策 | ○連合国による枢軸国の占領政策と日本の戦後改革について理解する。 | ○戦後の国際秩序のもとで、連合国による枢軸国の占領政策がどのように行われたのか、また、日本のさまざまな改革がどのように行われたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 34 冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 | ○冷戦の展開と日本の主権回復について理解する。 | ○冷戦がどのように始まり、冷戦下の東アジアがどのような動きを見せたのか、また、日本がどのようにして主権を回復したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 35 再編されるアジア | ○冷戦下に再編されたアジア諸地域の動きについて理解する | ○冷戦下にアジアの諸地域で起こったナショナリズムや民族独立の動きが、世界にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰についての問い合わせを踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |

| | | | | |
|---------|------------------------------------|--|---|--|
| | 4 節 國際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 | | ○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる國際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 | |
| 12 月 | 第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い合わせ | | ○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問い合わせを表現する。 | |
| | 2節 冷戦と世界経済 | | ①地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。 ②冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 | |

| | | | | |
|----|--|------------------|---|--|
| | | 36　冷戦の拡大と第三勢力 | ○冷戦の拡大と第三勢力の台頭について理解する。 | ○国際政治の変容についての問い合わせを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○冷戦が拡大しながらも共存していく過程や、その中でアジア・アフリカ諸国に独自の動きが現れたことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 37　キューバ危機と核兵器の管理 | ○冷戦下の核開発競争と宇宙開発競争、および核兵器管理への方針転換について理解する。 | ○米ソ両国の核開発競争と宇宙開発競争の展開と、キューバ危機をきっかけとした核兵器管理体制への転換について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 38　脱植民地化の進展と地域紛争 | ○アジア・アフリカにおける脱植民地化の動きと、それらの地域で起こった地域紛争について理解する。 | ○アジア・アフリカで植民地が次々に独立したが、さまざまな要因により地域紛争が頻発したことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際秩序の変容についての問い合わせを踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |
| 1月 | | 39　計画経済と開発 | ○自由主義国、社会主義国、開発途上国の経済政策について理解する。 | ○世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問い合わせを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○社会主義国の計画経済と西側先進国の福祉国家化、および開発途上国の経済政策と先進国の開発援助について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 40　冷戦下の日本とアジア | ○冷戦下の日本の国内政治とアジア外交について理解する。 | ○冷戦下の日本の国内政治や安全保障、およびアジア外交について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

| | | | | |
|----|---------------|-------------------|--|--|
| | | 41 日本と欧米先進国との経済成長 | ○欧米先進国と日本の経済成長とそれに伴う社会の変容について理解する。 | ○欧米先進国や日本の経済成長の特徴と、経済成長がもたらした社会の変容や環境問題について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 42 地域連携の拡大 | ○ヨーロッパやアジアにおける地域連携の動きについて理解する。 | ○ヨーロッパで進んだ地域連携の動きやアジアにおける地域連携の動きにはどのような特徴があるのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 43 ベトナム戦争と冷戦構造の変容 | ○ベトナム戦争と冷戦構造の変容について理解する。 | ○ベトナム戦争や中ソの対立が世界に与えた影響について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問い合わせを踏まえて、小単元の学習を振り返る。 |
| 2月 | 3節 世界秩序の変容と日本 | | ①アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 ②冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 | |

| | | | | |
|--|--|----------------|--|---|
| | | 44 問い直される近代 | <p>○先進諸国において、近代的な価値観を問い合わせる動きが現れ、価値観の変容が生じたことについて理解する。</p> | <p>○市場経済の変容と課題についての問い合わせ表現し、小単元の学習の見通しを立てる。</p> <p>○経済的な発展をとげた先進諸国において、物質的な豊かさをはじめとした近代的な価値観が見直されるようになり、新たな価値観に基づいたさまざまな運動が起こったことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | | 45 石油危機と経済の自由化 | <p>○石油危機と経済の自由化について理解する。</p> | <p>○ブレトン・ウッズ体制の崩壊や石油危機に対する先進国の対応、その後の日本の経済大国化について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | | 46 アジアの経済発展と日本 | <p>○東アジア、東南アジア諸国・地域の経済発展について理解する。</p> | <p>○アジア NIES や ASEAN 諸国の経済発展と日本の関係、中国の改革開放政策と経済発展などについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○市場経済の変容と課題についての問い合わせ踏まえて、小単元の学習を振り返る。</p> |
| | | 47 冷戦の終結と世界 | <p>○冷戦の終結と東アジアの分断状況について理解する。</p> | <p>○冷戦終結後の国際政治の変容と課題についての問い合わせ表現し、小単元の学習の見通しを立てる。</p> <p>○冷戦の終結に向かったアメリカとソ連、およびヨーロッパ諸国の動きと、東アジアにおける分断状況の継続について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
| | | 48 拡散する地域紛争 | <p>○冷戦終結後、世界各地で起きた地域紛争や、それらに対する国際社会の動きについて理解する。</p> | <p>○冷戦終結後、旧東側陣営や中東を中心に起きた地域紛争や、各地の紛争解決に向けての国際連合やアメリカ合衆国、日本などの動きに</p> |

| | | | | |
|----|------------------|----------------|---|---|
| | | | | について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 49 民主化の進展 | ○世界各国で進んだ民主化の動きと、日本の政権交代について理解する。 | ○世界各国で進んだ民主化の動きと冷戦の終結の関係や、日本で起こった政権交代について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 50 グローバル化と地域統合 | ○冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。 | ○冷戦終結後に人・モノ・カネ・情報などが国境を越えて移動するようになり、グローバル化が進んだだけでなく、地域統合が進展したことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| | | 51 岐路に立つ世界と日本 | ○グローバル化や地域統合、民主主義が抱えた問題点について理解する。 | ○グローバル化の進展によって世界が抱えた問題点や、その解決に向けての取り組みについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦終結後の国際政治の変容と課題についての問い合わせを踏まえて、小单元の学習を振り返る。 |
| 3月 | 4節 現代的な諸課題の形成と展望 | | ○科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。 | |

4 評価の方法

(1) 評価の結果を活かす

評価は、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようとするためのものである。そのため、観点別学習状況の最終的な評価であり、記録に残す「評定に用いる評価」と、記録に残す必要はないが、学習の過程で生徒の状況を把握したり、確認したりする「学習改善につなげる評価」を、学校や生徒の状況に合わせて、的確に組み合わせることが大切である。

(2) 評価の観点

| | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けています。 |
| 思考・判断・表現 | ○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ○近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 (○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。) |

(3) 評価の時期と方法

- ア 各学校では、多くの学校で定期考查が設定されていると思われるが、定期考查では、知識偏重にならないように考慮したい。配分は各学校の実状に合わせて設定してよいが、各観点に基づいた評価ができるようにすべきである。
- イ また、評価は定期考查だけで行うべきではない。教科書の各項目の最後にある「TRY」の答え、また、各章4節の「現代的な諸課題」の「考えてみよう・調べてみよう」の答えなどを、ノートやワークシート等に記述させたい。もちろん、教科書を利用した記述だけでなく、授業中の他の活動におけるプレゼンテーションやグループワークの結果もノートやワークシート等に記述させるなど、評価をする際には教師側の工夫が必要である。
- ウ それぞれの評価は、生徒が「おおむね満足できる」状況に到達できるよう、指導すべきである。評定にいたるまでの段階で「努力を要する」状況と判断される場合には、さまざまなアドバイス等によって学習改善を図る、形成的な評価が大切である。

(4) 評定について

評定については、それぞれの学校の実状に合わせて設定された目標のもとに、評価規準に照らし合わせて、生徒が「おおむね満足できる」状況に到達できているかを軸として、総合的に判断する。